

## ねぶた祭への高校生の観覧・参加状況と祭への意識（思い）調査 ～ハネト若者離れ問題を焦点として～

### A Survey of High School Students' Participation in the Nebuta Festival as either 'Haneto' or Spectators, and their Thoughts about the Festival : Focusing on the Problem of the Decline in Number of 'Haneto' Youths

立田 健太\*・佐藤 紘昭\*\*・大谷 良光\*\*\*

Kenta TATSUTA\*・Hiroaki SATO\*\*・Yoshimitsu OTANI\*\*\*

#### 要 旨

青森ねぶた祭への「ハネト若者離れ問題」を焦点とし、若者に当たる高校2年生1140人を対象として祭の観覧・参加状況と祭への意識（思い）を調査した。大型ねぶたの観覧・参加率は2008年59.3%・36.7%で、「ハネト」での参加率は2007年72.8%、2008年64.6%で8.2%減じており「ハネト若者離れ」の一端が立証された。また、「ねぶた祭は世界に誇れる」や「伝統の継承」には高い意識（約8割）をしめしたが、この数値は参加率とかけ離れており、それを裏付ける「参加しなかった理由」として「特に興味がなく、参加する意義や必要性は感じない」が約4割で、その格差の克服が新たな課題として明確になった。それに対して我々は、学校教育との関わり、社会教育の充実、伝統文化の継承と観光化のバランスの3視点を提起した。

キーワード：大型ねぶた、町内ねぶた、ねぶた観覧・参加状況調査、ねぶた祭意識（思い）調査、ハネト若者離れ問題

#### 1. はじめに

弘前大学教育学部「ねぶた・ねぶたと学校教育研究」プロジェクト（代表－大谷良光）は、ねぶた・ねぶた祭への子どもの意識（思い）や、学校がねぶた・ねぶたに対してどのように関わっているかを調査し、その結果をまとめ発表した。それらは、「青森ねぶた・弘前ねぶたへの子どもの関わりと意識～青森市・弘前市内小学校4年生を対象とした調査～」<sup>1)</sup>（以下『小学生調査2006』と省略）。「小・中・高校生のねぶたへの意識と祭への思い（意識）の概要報告と提言」「同データ報告書」<sup>2)</sup>（以下『子ども意識調査2008』と省略）、「小・中学校でのねぶた・ねぶたと教育との関わり調査」報告書<sup>3)</sup>（以下『学校調査2008』と省略）。さらに、祭が益々充実・発展することを願い、それらの結果から実施可能な内容をまとめ、祭実行委員会、

教育委員会に提言した。

本調査は同プロジェクトの研究の一環であるが、青森ねぶた祭に限定し、しかも大規模調査の可能な高校生を対象とし、ねぶた祭の「ハネト若者離れ」の現状と、若者（高校生）がねぶたに関わる状況と祭への意識（思い）を明らかにするため実施した。

周知のように、ねぶた祭は「町内（地域）ねぶた祭」と「大型ねぶた祭」があり、前者がねぶた祭の源流であるが、全国的に有名な祭は大型ねぶたである。町内ねぶたは、2008年度60団体が青森観光コンベンション協会へ登録し、7月下旬やお盆の最中に町内を中心に運行し、町内における一大祭となっている。また、町内ねぶたは町内会・子供会などの地域単位で行われ、子どもから大人までが交流し、社会教育の場としての機能も果たしている。しかし、町内ねぶたを運

\* ねぶた師弟子

The apprentice of the Nebuta master

\*\* 弘前大学教育学部教員養成学研究開発センター

Center for Teacher Education Research and Department, Faculty of Education, Hirosaki University

\*\*\* 弘前大学教育学部技術教育講座

Department of Technology Education, Faculty of Education, Hirosaki University

行したくても経済面や組織面で運行できないところもあり、市内すべての町内で行われているわけではない。

企業や団体等が組織する大型ねぶたは2008年度22台出場し、8月2日～7日に運行した。この中で8月2、3日は、町内ねぶたで運行している団体が「子どもねぶた」という名称で申請し、許可された団体(2008年は17団体)が、大型ねぶたと同時に運行した。町内・大型ねぶたとともに囃子・ねぶた本体はあるが、ハネトは町内ねぶたにおいて行われていない団体もある。

さて、2008年のねぶた祭が終了した翌日、8月8日付けの「東奥日報」に「ねぶたの”華”若者離れ」が掲載された<sup>4)</sup>。そこでは、第1に、ハネトとして参加する若者が減り、囃子方で参加するものが増えている。第2に、カラスハネト<sup>5)</sup>対策としてハネト衣装の規制を厳格化したことにより若者が萎縮している。第3に、今後のねぶた祭でのハネトの参加数、若者の参加数を増やす対策が必要である、と指摘していた。

この報道を受け、ねぶた祭実行委員会事務局である青森観光コンベンション協会は、その対策としての基礎資料を得るための調査を、本プロジェクトに依頼した。本調査研究は、調査依頼が直接の契機ではあるが、以前の調査でサンプル数が少なかった高校生の現状を明らかにする必要性と、また、祭の担い手としての若者＝高校生の祭への関わりを明らかにすることが、本プロジェクトの目的とも一致するため実施した。

## 2. 調査目的と調査内容

本調査の目的は二つで、第1は高校生のねぶた祭への観覧・参加状況の年度ごとの比較、第2は高校生の祭への参加意識(思い)を明らかにすることである。後者は、『小・中・高校生のねぶたへの意識と祭への意識(思い)調査2008』<sup>2)</sup>と重なる部分もある。

調査目的の第1である「ねぶた祭への観覧・参加状況」は、町内ねぶた、大型ねぶたに分ける。高校生の居住地と地域ねぶたの有無、町内ねぶたが行われている町内での観覧・参加状況、参加内容や参加した条件、参加しなかった・出来なかった理由の昨年度と今年度とを比較する。また、大型ねぶたについても同様に行う。

目的の第2である、「大型ねぶた祭への参加意識(思い)」では、現在の大型ねぶたについて三つの領域から高校生の意識を調べる。一つは「ハネト」について、二つは「囃子」について、三つは「ねぶた祭全体」についてである。

以上二つの調査内容から、高校生の観覧・参加状況

と祭に対する意識(思い)を考察し、町内ねぶたと大型ねぶたの比較、『子ども意識調査』<sup>2)</sup>との比較検討を通して、「若者離れ」現象の有無とその要因、今後の祭の発展および子どもたちが継承していくことのできる施策を明らかにする。それらを踏まえ、青森観光コンベンション協会へ提言として報告し、対策のための基礎データを提供する。

## 3. 調査方法と考察の視点

調査対象は、「若者」一般では大規模なデータ収集が難しいため、若者の代表を高校生とし、進学や就職活動に左右されにくく、かつ年上の学年である2年生とした。また、青森市内の高校の立地地域と普通科、専門学科等に配慮して5校選出し、調査として望ましい1000サンプル以上を目指した。

予備調査として、2008年11月に青森県立青森D高等学校で実施し、再度質問項目の検討後本調査を行った。本調査は2008年12月に、学級担任の立ち会いにより学級ごとに実施し、回収数は1140人で調査校と調査数、用紙配布・回収日は表1である。

対象校 2学年	回答者数 (人)	調査用紙 配布日	調査用紙 回収日
青森県立青森A高等学校	222	12月1日	12月25日
青森県立青森B高等学校	216	12月1日	12月 8日
青森県立青森C高等学校	221	12月1日	12月16日
青森県立青森D高等学校	255	12月1日	12月10日
青森県立青森E高等学校	226	12月2日	12月 8日
計	1140		

表1 調査校と調査数、用紙配布・回収日

考察の視点は、ねぶた祭への観覧・参加状況の今年度(2008年)・昨年度(2007年)の比較、町内ねぶたと大型ねぶたの観覧・参加状況の比較、ねぶた祭の参加意識について、の三つである。

## 4. 調査結果と考察 その1

～ねぶた祭への観覧・参加状況の年度比較～

(1) 居住地と町内ねぶたについて

①居住地

調査対象高校生の居住地は、市内居住者が9割、市外居住者が1割である。中には、本籍が市外にあり、市内に居住している生徒もいると思われるが、今回は考慮していない。

回答者数	青森市内		青森市外	
	人	%	人	%
1140	1018	89.3	122	10.7

表2 高校生の居住地について

## ②町内ねぶた実施の有無

市内居住の居住地における町内ねぶた実施の有無を調べたのが表3である。「町内ねぶた有り」で50.7%、「町内ねぶた無し」で49.3%であり、町内ねぶたは、約半数の町内で行われている。

回答者数	町内ねぶた有り		町内ねぶた無し	
	人	%	人	%
1009	512	50.7	497	49.3

表3 町内ねぶたの有無について

## (2) 町内ねぶたの観覧・参加状況の年度比較

## ①観覧状況の比較

町内ねぶたの観覧状況について、町内ねぶたが実施されている地域に居住している生徒に尋ねた結果が表4である。「観覧した」は2008年34.6%、2007年34.0%（以下、前の数値が2008年度、後ろの数値が2007年度と省略する）、「観覧しなかった」は65.4%、66.0%で、今年度と昨年度の比較では顕著な差はない。また、町内ねぶたがあっても、観覧している生徒は35%と高くない。この点『小学生調査2006』の小学4年生の観覧率も33%で、ほぼ同じ傾向である。

	回答者数	観覧した		観覧しなかった	
		人	%	人	%
2008年	512	177	34.6	335	65.4
2007年	506	172	34.0	334	66.0

表4 町内ねぶたの観覧状況の年度比較

## ②参加状況の比較

## ②-1 参加の有無

町内ねぶたへの参加状況は表5である。「参加した」は2008年で12.4%、2007年で11.1%で、「参加しなかった」は、87.6%、88.9%で、顕著な差はない。

また、約9割の高校生は町内ねぶたに参加していない。この点『小学生調査2006』の小学4年生の参加率は35%であり、25%の差がある。これらの差の要因は、「町内ねぶたに参加できない・しない理由」（②-4項目）で検討する。

	回答者数	参加した		参加しなかった	
		人	%	人	%
2008年	510	63	12.4	447	87.6
2007年	503	56	11.1	447	88.9

表5 町内ねぶたの参加有無の比較

## ②-2 参加内容の比較

町内ねぶたでの高校生の参加内容について、②-1の質問で「参加した」と回答したものを対象に集計した結果が表6である。「ハネト」は2008年で39.7%、2007年で42.9%、「囃子」は19.0%、19.6%、「ねぶた引き」は28.6%、32.1%、「その他」は2008年で12.7%、その内容は、「水引き」「チラシ配り」であり、2007年は5.4%でその内容は、「チラシ配り」などが挙げられている。また、年度の比較の差は「ハネト」で3.2%であり、顕著でない。

また、『小学生調査2006』において4年生の「ハネト」は38%、「囃子」は50%、「ねぶた引き」は25%であることから、「ハネト」と「ねぶた引き」はほぼ同じ傾向にあり、町内ねぶたにおける「囃子」の主体が、小・中学生により担われていることが予想される。

## ②-3 町内ねぶたの参加条件の年度比較

町内ねぶたへの生徒の参加条件は、表7である。「自主参加」は2008年で57.4%、2007年で68.5%、「アルバイト」は29.5%、22.2%、「強制参加」は11.5%、5.6%、「その他」は2008年で1.6%でその内容は、「友達への付き添い」であり、2007年が3.7%でその内容は、「手伝い」が挙げられている。

	回答者数	ハネト		囃子		ねぶた引き		その他	
		人	%	人	%	人	%	人	%
2008年	63	25	39.7	12	19.0	18	28.6	8	12.7
2007年	56	24	42.9	11	19.6	18	32.1	3	5.4

表6 町内ねぶたの参加内容の比較

	回答者数	自主参加		アルバイト		強制参加		その他	
		人	%	人	%	人	%	人	%
2008年	61	35	57.4	18	29.5	7	11.5	1	1.6
2007年	54	37	68.5	12	22.2	3	5.6	2	3.7

表7 町内ねぶたの参加条件の比較

## ②-4 参加できなかった・しなかった

## 理由の年度比較

町内ねぶたに参加できなかった・しなかった理由について、②-1で「参加しなかった」と回答した生徒に尋ねた結果が表8である。

第1に多かった理由として「特に興味がなく参加しなかった」は2008年で36.7%、2007年で38.0%、第2に「学校行事・部活動のため、参加できなかった」は19.8%、19.3%、第3に「私的な都合で参加できなかった」は14.6%、13.4%、第4に「参加する機会が特になかったので参加しなかった」は14.4%、12.7%、第5に「参加する意義や必要性を感じないので参加しなかった」は11.7%、12.3%、第6に「その他」で

2008年は2.3%でその内容は、「地域ねぶたはあるが、町内が違うので参加できない」「活気がないから参加しない」「運行していることを知らなかった」「なんとなく」「中学・高校生になると参加しなくなるから」「子どもばかりだから参加しない」「ねぶたの楽しさがわからない」「めんどくさい」「家庭の事情」などが挙げられている。また、2007年で3.5%で、その内容は、2008年の内容とほとんど同じである。第7に「青森ねぶた以外の祭を観覧していたため参加できなかった」は2008年で0.4%、2007年で0.8%である。

年度での違いはほとんどないが、地域ねぶたに対する興味や意義の認識が、小学生に比べて低いことが、参加率が1割になっている原因の一つと考えられる。

	回答者数	学校行事・部活動等のため、参加できなかった		私的な都合で参加できなかった		青森ねぶた以外の祭を観覧していたため参加できなかった		参加する機会が特になかったので参加しなかった		特に興味がなく参加しなかった		参加する意義や必要性を感じないので参加しなかった		その他	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
2008年	520	103	19.8	76	14.6	2	0.4	75	14.4	191	36.7	61	11.7	12	2.3
2007年	513	99	19.3	69	13.4	4	0.8	65	12.7	195	38.0	63	12.3	18	3.5

表8 町内ねぶたに参加出来なかった・しなかった理由の比較

※複数回答可

## (3) 大型ねぶたの観覧・参加状況の年度比較

大型ねぶたについての観覧・参加状況については、青森市内・青森市外の両者の生徒に質問した。

## ①観覧状況の比較

大型ねぶたの観覧状況について、2008年と2007年

を比較したのが表9である。「観覧した」は2008年で59.3%、2007年で58.6%、「観覧しなかった」は40.7%、41.4%と今年・昨年と観覧した高校生が約6割近くいる。しかし、『小学生調査2006』の小学4年生の大型ねぶたへの観覧率は89%と高く約30%の異なりがあることが特徴である。

	回答者数	観覧した		観覧しなかった	
		人	%	人	%
2008年	1132	671	59.3	461	40.7
2007年	1127	661	58.6	466	41.4

表9 大型ねぶたの観覧状況の比較

## ②参加状況の年度比較

## ②-1 参加の有無

大型ねぶたへの参加の有無について2008年と2007年を比較したのが表10である。「参加した」は2008年で36.7%、2007年で33.4%、「参加しなかった」は63.3%、66.6%で、参加した高校生が約35%であり、年度での参加率の顕著な差は認められない。この点『小学生調査2006』の小学4年生の参加率は68%で、その差は3割であったことから、観覧、参加とも小学生と高校生に意識の違いがある（ただし小学校調査は、子どもねぶたで大型ねぶた運行に参加している学校が含まれているため単純に比較することはできない）。

	回答者数	参加した		参加しなかった	
		人	%	人	%
2008年	1132	415	36.7	717	63.3
2007年	1126	376	33.4	750	66.6

表10 大型ねぶたの参加状況の比較

## ②-2 参加内容の年度比較

	回答者数	自主参加		アルバイト		強制参加		その他	
		人	%	人	%	人	%	人	%
2008年	412	272	66.0	101	24.5	28	6.8	11	2.7
2007年	373	285	76.1	66	18.0	13	3.5	9	2.4

表12 大型ねぶたの参加条件についての比較

## ②-4 参加できなかった・しなかった理由の年度比較

大型ねぶたに参加できなかった・しなかった理由を2008年と2007年とで比較したのが表13である。第1に多かった理由として「特に興味がなく参加しなかった」が2008年29.3%、2007年32.5%である。「参加することについて興味がない」ということは、対象とす

大型ねぶたの参加内容について、2008年と2007年を比較したのが表11である。「ハネト」は2008年で64.6%、2007年で72.8%、「囃子」は4.3%、5.3%、「その他」は2008年31.1%でその内容は、「学校のねぶたへの参加」「ばけと」「アルバイト」「ねぶた祭終了後の掃除」などが挙げられている。2007年では21.9%で、内容は2008年と同様である。

ここで注視すべきは、「ハネト」参加率において2008年が2007年より8.2%減じており、顕著な差が認められたことである。また、「囃子」参加率において2008年が2007年より1.0%減じており、本調査において高校生の囃子への移行は認められない。

	回答者数	ハネト		囃子		その他	
		人	%	人	%	人	%
2008年	415	268	64.6	18	4.3	129	31.1
2007年	375	273	72.8	20	5.3	82	21.9

表11 大型ねぶたの参加内容についての比較

## ②-3 参加条件の年度比較

大型ねぶたの参加条件について、2008年と2007年を比較したのが表12である。「自主参加」は2008年は66.0%、2007年は76.1%、「アルバイト」は24.5%、18.0%、「強制参加」は6.8%、3.5%、「その他」は2008年で2.7%で、その内容は「ロープ持ち」「部活動員強制のアルバイト」などである。2007年で2.4%でその内容は、「ボランティア」が挙げられ、あとの内容は2008年と同様である。

る高校生がねぶた祭への関心が低いこと、また、ねぶた祭が持つ祭の意義の理解が低いことなどに繋がっていると思われる。

第2に「学校行事・部活動のため、参加できなかった」は2008年21.2%、2007年20.8%、第3に「私的な都合で参加できなかった」は18.0%、17.2%、第4に「参加する機会がなかったので参加しなかった」は

15.3%、15.6%、第5に「参加する意義や必要性を感じないので参加しなかった」は10.0%、9.6%、第6に「大型ねぶたの運行に関する以外のアルバイトをしていたので参加できなかった」は4.3%、2.1%、第7に「その他」は1.0%、1.5%で、その内容は「めんどくさい」「楽しさがわからない」「市民の祭でなくなっ

ているから」「見ているだけでいい」「昔の祭の方が良かった」「人混みが嫌い」「衣装がない」「活気がないから」「怪我をしていた」「入院をしていた」などがあげられ、兩年とも同様の内容である。第8に「青森ねぶた以外の祭を観覧していたため参加できなかった」は2008年で1.0%、2007年で0.7%である。

	回答者数	学校行事・部活動等のため、参加できなかった		私的な都合で参加できなかった		青森ねぶた以外の祭を観覧していたため参加できなかった		参加する機会がなかったため参加できなかった		大型ねぶたの運行に関する以外のアルバイトをしていたので参加できなかった		特に興味がなく参加しなかった		参加する意義や必要性を感じなかった		その他	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
2008年	857	182	21.2	154	18.0	7	1.0	131	15.3	37	4.3	251	29.3	86	10.0	9	1.0
2007年	884	184	20.8	152	17.2	6	0.7	138	15.6	19	2.1	287	32.5	85	9.6	13	1.5

表13 大型ねぶたに参加できなかった・しなかった理由の比較

※複数回答可

## ②-5 今年のねぶた期間中のアルバイト内容

2008年のねぶた祭期間に、「高校生がどのようなアルバイトをしていたのか」は表14である。「アルバイトをしていない」が78.0%、「ねぶた祭に関する以外のアルバイトをしていた」が4.1%、「ねぶた引きのアルバイト」が11.2%、「売り子のアルバイト」が2.6%、

「屋台などのアルバイト」が1.8%、「ねぶた祭に関するその他のアルバイト」が2.3%で、この中には、高校のアナウンス部の活動として、ねぶた祭内のねぶたの解説などが挙げられている。「ねぶたに関するアルバイト」は、合計で17.9%である。

	回答者数	アルバイトはしていない		ねぶた祭に関する以外のアルバイト		ねぶた引きのアルバイト		売り子のアルバイト		屋台などのアルバイト		ねぶたに関するその他のアルバイト	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
2008年のみ	935	729	78.0	38	4.1	105	11.2	24	2.6	17	1.8	22	2.3

表14 今年のねぶた期間中のアルバイトの内容

※複数回答可

## 5. 調査結果と考察 その2

～町内ねぶたと大型ねぶたの観覧・参加状況・参加条件の比較とその要因～

これまで、町内ねぶた・大型ねぶたの観覧・参加状況を分けて考察してきたが、ここでそれぞれの観覧・参加状況を比較検討し、問題と課題を明らかにする。なお、比較年は2008年のみ考察する。

町内ねぶたと大型ねぶたの観覧・参加状況の比較をしたのが表15である。「観覧した」は町内ねぶたで34.6%、大型ねぶたで59.3%である。町内ねぶた・大型ねぶたを比較すると、大型ねぶたの観覧率が24.7%高い。また、「参加した」は町内ねぶたで12.3%、大型ねぶたで36.7%であり、大型ねぶたの参加率が

24.4%高く、観覧率の差とほぼ同じである。また、参加条件では、地域ねぶたが「アルバイト」として参加が5.0%、地域や団体に依頼された「強制参加」が4.7%高く、一方「自主参加」は、大型ねぶたが8.6%高い。

これらの差の要因は、「参加できなかった・しなかった理由」において、それぞれの参加しなかった理由の第一位「特に興味がなく参加しなかった」と「参加する意義や必要性を感じない」の合計が、町内ねぶたで48.4%、大型ねぶたで39.3%とあり、町内ねぶたが大型ねぶたより9.1%も高いことから、高校生の町内ねぶたへの興味・関心がより低いといえる。

2008年	回答者数	観覧した		参加した	
		人	%	人	%
町内ねぶた	510	177	34.6	63	12.3
大型ねぶた	1132	671	59.3	415	36.7

表15 町内・大型ねぶたの参加状況の比較

## 6. 調査結果と考察 その3

～ねぶた祭の参加意識（思い）について～

ねぶた祭への参加意識（思い）の調査内容は、「ハネト」と「囃子」と「ねぶた祭全体」についての3領域で、それぞれ五段階の尺度で評価した。その結果に『子ども意識調査2008』の中から高校生調査データ（高校1年生で1校）の299サンプルを合わせて提示したものが表16である。

## (1)ハネトについての意識（思い）

ハネトについての肯定的な意識（思い）は、「ハネトはねぶた祭になくてはならない」が88.2%、『子ども意識調査2008』の同類の設問では78.0%である。「ハネトは人数が多いほど楽しいと思う」が89.1%、「ハネトとして参加する時の、規制が厳しく思う」が49.4%、「伝統文化であるねぶた祭だが、花笠は今の時代にあっていないと思う」が32.2%、「ハネトとして参加する場合、衣装代などにお金が掛かりすぎると思う」が46.3%である。8～9割の生徒は「ハネト」を「なくてはならない」「素晴らしい」と思っているものの、多くの生徒は参加までに至っていない。その要因として、約5割の生徒が「参加の規制」と「衣装代」について指摘していることは注視すべきと思われる。

	ねぶた祭への意識調査の項目（1140人対象）	意識段階 %					
		①+②	①	②	③	④	⑤
(1) ハネトについて	1. ハネトはねぶた祭になくてはならないと思う	88.2	76.0	12.2	8.1	0.7	3.0
	2007年「ねぶた祭りの、ハネト、バケツなどの踊りが素晴らしいと思う」	78.0	38.0	40.0	16.7	4.0	1.3
	2. ハネトは人数が多いほど楽しいと思う	89.1	75.7	13.4	8.6	0.3	2.0
	3. ハネトとして参加する時の、規制が厳しいと思う	49.4	28.2	21.2	28.2	9.1	13.3
	4. 伝統文化であるねぶた祭だが、花笠は今の時代にあっていないと思う	32.2	18.3	13.9	36.9	11.3	19.5
(2) 囃子について	5. ハネトとして参加する場合、衣装代などにお金が掛かりすぎると思う	46.3	22.9	23.4	34.2	8.6	10.9
	6. 囃子はねぶた祭になくてはならないと思う	87.2	76.4	10.8	9.4	0.8	2.6
	2007年「ねぶた祭りの太鼓、笛、鉦などの囃子が素晴らしいと思う」	89.0	56.9	32.1	8.3	2.0	0.7
	7. 囃子をやってみたいが、きっかけがないと参加できないと思う	54.2	34.6	19.6	25.0	6.0	14.8
	8. ねぶた祭において、近年ハネトの人数より囃子の人数の方が多くなってきたと思う	24.2	13.7	10.5	52.0	9.7	14.1
(3) ねぶた祭全体について	9. 囃子として参加する場合、講習会などのお知らせは学校を通じて教えてもらえればよいと思う	48.6	24.1	24.5	35.7	5.4	10.3
	10. ねぶた祭はハネトとして参加する方が楽しいと思う	64.3	46.9	17.4	26.6	3.5	5.6
	11. ねぶた祭は囃子として参加する方が楽しいと思う	27.5	14.2	13.3	49.8	9.1	13.6
	12. ねぶた祭を観覧する場合、観覧場所を確保するのが大変で、市民の観覧する場所が少ないと思う	69.2	43.3	25.9	21.0	4.3	5.5
	13. ねぶた祭は世界に誇れる祭だと思う	78.8	59.8	19.0	16.3	1.9	3.0
	2007年「同上」	87.9	62.1	25.8	8.4	2.3	1.3
	14. ねぶた祭は、これから若い人が中心になって伝統を継承していかなければならないと思う	77.0	52.0	25.2	18.0	1.7	3.1
	2007年「古くから伝わる祭りを、自分の子どもたちに伝えていく必要があると思う」	89.3	65.1	24.2	8.7	1.0	1.0
	15. ねぶた制作を学校の授業や課外活動で取り入れた方がよいと思う	43.1	20.4	22.7	32.9	9.8	14.1
	2007年「学校の授業や行事において、ねぶた制作を取り入れた方がよいと思う」	39.8	14.7	25.1	33.4	16.0	10.7
	16. 囃子の練習を学校の授業や課外活動で取り入れた方がよいと思う	34.9	16.8	18.1	33.7	12.1	19.3
	17. ねぶた祭を学校の独自行事として取り入れ、運行してみたいと思う	33.7	17.5	16.2	33.9	11.1	21.2
	2007年「私は、学校の授業や行事においてねぶた祭を取り入れた方がよいと思う」	43.6	18.1	25.5	30.9	16.1	9.4

\* 段階 ①：そう思う ②：どちらかといえばそう思う ①+②：肯定的と評価  
③：わからない ④：どちらかといえばそう思わない ⑤：思わない

表16 大型ねぶた祭の参加意識等についての意識尺度調査

## (2)囃子についての意識（思い）

囃子についての肯定的な意識（思い）は、「囃子は

ねぶた祭になくてはならないと思う」が87.2%、『子ども意識調査2008』（同類の設問）では89.0%である。

「囃子をやってみたいが、きっかけがないと参加できないと思う」が54.2%、「ねぶた祭において、近年ハネトの人数より囃子の人数の方が多くなってきたと思う」が24.2%、「囃子として参加する場合、講習会などのお知らせは学校を通じて教えてもらえればよりよいと思う」が48.6%である。囃子もハネトと同様に、「なくてはならない」「素晴らしい」と約9割の生徒が思っているものの、多くの生徒が参加までに至っていない。その要因として、「やってみたいが参加のきっかけがない」、よって「講習会のお知らせを学校を通して教えてほしい」と5割の生徒が求めていることは注目すべきといえる。

### (3)ねぶた祭全体についての意識（思い）

ねぶた祭全体についての肯定的な意識（思い）は、「ねぶた祭はハネトとして参加する方が楽しいと思う」が64.3%、「ねぶた祭は囃子として参加する方が楽しいと思う」が27.5%で、参加するならばハネトで参加してみたいという高校生気質が読みとれる。

また、「ねぶた祭を観覧する場合、観覧場所を確保するのが大変で、市民の観覧する場所が少ないと思う」が69.2%であり、約7割の生徒がこのように感じているならば、多くの市民も同様と思われ、観覧場所に関して運行コースとともに検討する必要性を語っている。

「ねぶた祭は世界に誇れる」が78.8%で、『子ども意識調査2008』で87.9%、「ねぶた祭は、これから若い人が中心となって伝統を継承していかなければならないと思う」が77.0%で、『子ども意識調査2008』（同類の設問）で89.3%と、ねぶた祭への誇りと、それを継承していく必要性を約8～9割の生徒が認識している。

それから、「ねぶた制作を学校の授業や課外活動で取り入れた方がよいと思う」が43.1%、『子ども意識調査2008』（同類の設問）で39.8%、「囃子の練習を学校の授業や課外活動で取り入れたほうがよいと思う」が34.9%、「ねぶた祭を学校の独自行事として取り入れ、運行してみたいと思う」が33.7%、『子ども意識調査2008』（同類の設問）で43.6%である。このことは、ねぶたを学校教育に取り入れ位置づけていく必要性があると考えている積極的な生徒が4割もいることを示しており、今後のねぶた祭の発展にとって明るい見通しと思われる。

## 7. 結論

以上の調査結果と考察を総合し整理すると次のよう

になる。

第1に、観覧率は、町内ねぶた34.6%、大型ねぶた59.3%で、大型ねぶたの観覧率が25%ほど高い。また参加率は、町内ねぶた12.3%、大型ねぶた36.7%で、これも、大型ねぶたの参加率が25%ほど高い。町内ねぶたが運行されているにもかかわらず観覧・参加率が低い理由として、町内ねぶたの運行期間が1～2日ほどしかないため、所用で参加できなかったことも考えられる。しかし、「参加しなかった」理由の「特に興味がなく参加しなかった」と「参加する意義や必要性を感じない」の合計が大型ねぶたより9.1%も高いことから、大型ねぶたに比べた町内ねぶたへの興味・関心の低さもその要因といえる。

意識（思い）調査で、「ねぶた祭は世界に誇れる」や「ねぶたの次世代への伝承の必要性」は、ともに8～9割と高いにもかかわらず、大型ねぶたでも参加率が36%で、参加しなかった理由の4割近くが「興味がない、意義や必要性を感じない」と応えていることは、新たな課題として検討する必要がある。しかし、視点を変えれば、社会に対する要求や関心が分散化する後期中等教育のこの時期に、大型ねぶたに4割近い生徒が参加し、6割近くが観覧し、2割がねぶたに関するアルバイトをしている様相は、他県の祭に比べて特異で評価されてよいものと思われる。

そこで、ねぶた祭に参加する高校生を概観すると、町内ねぶたには、ハネトに40%、囃子に19%、引き手に29%であり、若者として町内ねぶた運行の一端を担っていることがわかる。ただし、運行における若者不足があり、「強制（依頼）参加」やアルバイトでの参加が、大型ねぶに比べ10%ほど高くなっている現状がある。大型ねぶたは、ハネトに65%、囃子に5%で、ハネト中心に参加しているという役割が見えてくる。それは「自主参加」が町内ねぶたに比べて9%高いことから裏付けられる。

第2に、本論の焦点である「ハネト若者離れ」とねぶたへの参加内容についてである。「ハネト」としての2008年度の参加は、町内ねぶた39.7%、大型ねぶた64.6%で、「ハネト」参加率は、2007年の大型ねぶたの72.8%から比較すると8.2%減じており、ハネトの減少が認められた<sup>6)</sup>。このことから、高校生のハネト参加率が減少、すなわち「若者離れ」の一端を指摘することができる。また、その理由として「ハネトとして参加する時の、規制が厳しく思う」と約5割の生徒が意識していることは、「カラスハネト対策による減少」という記者の指摘<sup>4)</sup>を裏付けている。ただし、



記者が指摘した「囃子への転向」の根拠は証明されなかった。さらに、「ハネトとして参加する場合、衣装代などにお金が掛かりすぎと思う」と約5割の生徒が応えていることは、祭参加者の経済的側面からの配慮の必要性を語っている。

そこで、ハネトの参加減少により、その分どの領域に生徒が参加したかは、「その他」が9%増加し、その内容は「学校のねぶたへの参加」「アルバイトでの参加」が多く、これらはおそらく引き手として参加しているものと思われる。

また、祭関係者で語られていた、「若者のハネト離れ＝若者の参加離れ」説とその理由は、参加率が前年に比べて3%増加したことや、参加できない理由として推測された、「学校行事・部活等のため参加できない」は両年とも約2割、「ねぶたに関する以外のアルバイトのため参加できない」は、両年平均で3%と少なく、説、理由とも否定される結果になった。

次に囃子は、2008年は町内ねぶた19.0%、大型ねぶた4.3%で、2007年の大型ねぶた5.3%と囃子での参加者は1%減じており、囃子で大型ねぶたに参加する高校生は多くない。また、「ねぶた祭において、近年ハネトの人数より囃子の人数の方が多くなってきたと思う」との見方は24.2%で、「そう思わない」が23.8%であるため、記者の指摘<sup>4)</sup>とは異なる結果となった。

囃子はハネトと違い、誰もができるわけではなく、各団体の囃子の組織に籍を置かなければならず、意識調査の「囃子をやってみたいが、きっかけがないと参加できないと思う」では54.2%の生徒がきっかけを求めている。また、生徒にとってねぶた祭に参加するスタイルとして、「囃子として参加する方が楽しい」27.5%より、「ハネトとして参加する方が楽しい」64.3%、のようにハネトが最も身近であり、参加しやすいものと思われる。これらから、「ハネトから囃子への転化」説は、「木を見て森を見ない」ものといえよう。

第3に、第1の整理で述べた、ねぶた祭の「次世代への伝承の必要性」等の意識（思い）と参加率（町内ねぶた12.3%、大型ねぶた36.7%）とに大きな開きがあり、また、参加しなかった理由の4割近くが「興味がない、意義や必要性を感じない」と応えていることの格差の理由とそれらへの方策について検討する。

一つに、格差の主要な側面は、子どもがねぶた祭を地域の文化として理解し、自身の課題としているかという点にあると考えられる。そのためには学校教育においてねぶたを教育内容、または、教材としてどの

ように取り扱うかの検討が必要になる。調査において、生徒自らが「ねぶた制作を学校の授業や課外活動で取り入れた方がよい」43.1%、同類の『子ども意識調査2008』で39.8%、「囃子の練習を学校の授業や課外活動で取り入れたほうがよい」34.9%、「ねぶた祭を学校の独自行事として取り入れ、運行してみたい」33.7%、同類の『子ども意識調査2008』で43.6%と応えていることがその方向性を示しているといえる。また、学校教育においてねぶたを取り上げることは、「青森ねぶた祭特別検討委員会報告書」<sup>7)</sup>においても、「学校教育におけるねぶた祭推進の働きかけが必要」と述べられており、その内容は「ねぶた祭のハネトとしての参加の仕方・跳ね方、ねぶたの由来について教える」等を挙げている。

二つは大人社会の反映である、高校生・若者のねぶた祭の「客観視」<sup>8)</sup>が考えられ、市民を置き去りにしたといわれる「ねぶた祭の観光化」が肥大になりすぎた結果との指摘もある<sup>8)</sup>。この克服には、地域の伝統文化の継承と観光化とのバランスをどのようにとるかにある。この点については、本調査と直接的な関わりが少ないため論究は差し控えるが、一ついえることは、町内ねぶたが青森市の半分の町会でしか運行されていない事実である。本来のねぶた祭であった地域ねぶたが多くの町内で運行され、その盛行により若者の伝統文化への見直しが進むことが、「格差」克服へ繋がると思われる。

三つは、一つ目に関わり、子どもへの長期的な働きかけを、社会教育等の場で展開し、ねぶたに意欲を持つ子どもの層を拡大していくことにより祭への参加層を増やしていくことである。このことは、『龍の伝言』<sup>9)</sup>でも提言として挙げられている。計画的にねぶた祭の大切さ・参加方法・制作体験などを子どもたちに伝授する機会を多く設け、伝統を継承するための基盤を社会教育の中から確立していく方向性をさらに整備していくことが求められている。この点、新幹線青森駅周辺整備基本計画の一つとして建設が予定されている「青森文化観光交流施設」<sup>10)</sup>の利用は有効である。

これらは、祭の「推進施策」の関わりの内容のため、教育委員会や祭関係団体などとの共同調査や実践研究を進めることが必要である。本プロジェクトは、そのために微力ではあるが尽力したい。

最後に、調査にご協力いただいた関係諸学校の校長先生、学年主任、担任の先生に深く感謝申し上げます。また、調査データの集計を担当した学生調査メンバー

(代表 大野絵美) の皆さんに感謝します。

## 註

- 1) 大谷良光・立田健太・井上怜央：「青森ねぶた・弘前ねぶたへの子どもの関わりと意識～青森市・弘前市内小学校4年生を対象とした調査～」『弘前大学教育学部紀要 第96号』、pp. 51-60、2006年。
- 2) 弘前大学教育学部ねぶた・ねぶたと学校教育研究プロジェクト：「小・中・高校生のねぶたへの意識と祭への思い（意識）の概要報告と提言」「同データ報告書」、2008年7月7日。この提言は、両市の関係団体と教育委員会に行い、提言時に記者会見を行い、6社が報道した。
- 3) 弘前大学教育学部ねぶた・ねぶたと学校教育研究プロジェクト：「小・中学校でのねぶた・ねぶたと教育との関わり調査」報告書、2008年7月7日、2)の「同データ報告書」に収められている。
- 4) 東奥日報記事
- 5) 白を基調にした正装のハネトに対し、黒・茶・紫・紺などの暗色を中心にした和装（普段着や作業着などの場合もある）でハネトに参加する若者のことを呼ぶ。西東克介「祭と行政－青森ねぶた祭の「伝統」と「カラス族」に焦点をあてて－（精神性が尊重されるべき営みへの社会と行政のかかわり）」『地域学』創刊号 弘前学院大学地域総合文化研究所編、2002年。
- 6) 本調査は、同一高校生の1年次と2年次の比較であ

り、2年生という同時期の対象者による比較調査でない。そのため、一人の生徒の1年間の生活の違いによる変化の可能性もあるが、今回はその課題は除外して調査・考察した。

- 7) 2007年7月に「青森ねぶた祭」の抱える課題・問題点を解決していくため、「青森ねぶた祭特別検討委員会」が組織され、時代の流れとともに変化していく祭を、時代に合わせ、「祭」を育てていくこと、また、「国指定重要無形民俗文化財『青森のねぶた』の保存伝承と継続的な発展を目指し、今後の祭の在り方や推進組織の在り方などについて検証および検討すること」を目的として2008年10月にまとめられた報告書。
- 8) 瀧本知佳子「伝統的な祭と地域コミュニティー青森県のねぶた祭における地域と観光の関係－」『京都橘大学大学院文化政策学研究科研究紀要』、2008年。
- 9) 澤田繁親著『龍の伝言 ねぶた師列伝』ノースプラットフォーム、pp. 564-565、2006年8月。
- 10) この施設のコンセプトとして「ねぶたがつなぐ、街、人、こころ」と設定され、主な目的は、市民と観光客およびねぶた関係者の交流の中核となる施設とし、市民の日常的な利用と活動が可能であり、新鮮で魅力的な情報発信や人と人の直接的、体験的なふれあいを通じて、市民と観光客およびねぶた関係者が青森固有の文化とその魅力を共有することが求められる。青森市におけるコンパクトシティ事業の一環である。

(2009. 8. 7 受理)